

[illegible]

海甲二二

明治三十二年四月十日

内閣總理大臣

法制局長官

肉務食	肉務食
血	血
陸軍食	大蔵食
	海軍食
司法食	文部食
農商務食	文部食
水	水
郵便食	逓信食
	正

別紙海軍大臣請儀海軍下瀨火藥製造所條例制定ノ件ヲ審査スルニ海軍下瀨火藥製造所ノ藥造工事業逐次進步セシニ依リ火藥製造事業開始、爲本件

ノ制定ヲ要ス而シテ其ノ經費ハ本年度豫算ニ於テ要求シタル人員ニ比シ衆分ノ差異アルハ右大案ハ海軍ニ於ル唯一ノ大案ニシテ特ニ軍事上最モ急遽製作ヲ要スルカ爲メニシテ右俸給ノ支給ハ差繰り支辨ノ見込有之ニ付請議ノ通閣議決定セラレ可然ト認ム

勅令案

呈案附箋ノ通

○海軍造兵廠條例 明治三十五年五月

第十一條 海軍造兵廠ニ軍医長ヲ置キ廠長ノ

命ヲ承ケテ医務衛生ニ関スル事ヲ掌ラシム

前項ノ外必要ニ應ジ海軍造兵廠ニ海軍軍医

ヲ置キ軍医長ノ命ヲ承ケテ服務セシム

第十二條 前諸條掲グ職員ノ外海軍兵曹

長同相當官並准士官下士官及判任文官ヲ

置キ各上官ノ命ヲ承ケテ服務セシム

○海軍造兵廠條例 明治三十五年五月

第一條 吳軍港及東京之海軍造兵廠ヲ置ク

海軍造兵廠ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠ス

第六條 検査科ハ其ノ兵器ノ検査試験保管供給及

輸送ノ事ヲ掌リ及底訪ヲ掌理ス

第八條 製造科検査科及今計課ニ在ノ職員ヲ置ク

(四)

検査科

科長 海軍少佐若木達也ヲ置ク

主幹 海軍大尉大槻隆夫ヲ置ク其ノ下ニ技師

(五)

兵部

○明治三十一年度豫算 海軍省所管

第二款 軍事費

第七項 兵器彈藥及水雷費ニ於ケル新艦艇ノ

増加ト下瀬大砲電燈所工業開作ノ爲メ増費ヲ要ス

ト造兵事業工業ノ増進ニ伴フ諸費ノ増加ヲ要ス

ト物價騰貴ノ爲メ兵器購入代價及材料等代

價ノ差増並軍艦修理費ノ差額ヲ要ス等ノ

爲メ増加ス由リ

六〇二、七七三、四九一

予増加し



海軍

下瀬火藥製造所奉給豫美調

一技師一名 金七百円

但半々年分 平均額、年額千四百円

一書記四名 金七百弍拾円

但全上 金三百六拾円

一技手四名 金七百弍拾円

但全上 金 上

合計金弍千百四拾円

官房第一六四號

法部省

海軍下瀬火藥製造所條例制定件

海軍下瀬火藥製造所ノ築造ハ當初計
畫ノ通工事逐次進歩セシヲ以テ今ヤ同所
條例制定ノ必要ヲ認メ別紙勅令案ヲ具シ
茲ニ閣議ニ提出ス

明治三十二年三月十六日

海軍大臣 山本權兵衛



内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋 殿

朕海軍下瀬火藥製造所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公
布セシム

御名 御璽

明治三十二年四月十三日

海軍大臣

勅令第百四十四號

海軍下瀬火薬製造所條例

第一條 海軍下瀬火薬製造所ハ之ヲ東京ニ置キ

第二條 海軍下瀬火薬製造所トス

第三條 海軍下瀬火薬製造所ニ左ノ職負ヲ置ク

所長

主幹

第四條 所長ハ海軍大臣ニ隸シ所務ヲ総理ス

第五條 本所ノ醫務衛生ニ関スル事務ヲ掌理ス

第六條 軍造兵廠軍醫長ヲシテ管掌セシメ之ニ該廠附

看護手及看護ヲ附ス

第七條 製造火薬ノ検査ハ東京海軍造兵廠検査

勅令第百四十四號

海軍下瀬火薬製造所條例

第一條 海軍下瀬火薬製造所ハ之ヲ東京ニ置キ

下瀬火薬ヲ製造スル所トス

第二條 海軍下瀬火薬製造所ニ左ノ職負ヲ置ク

所長

主幹

第三條 主幹ハ海軍大臣ニ隸シ所務ヲ総理ス

第四條 主幹ハ所長ヲ助ケ擔任ノ事務ヲ掌理ス

第五條 本所ノ醫務衛生ニ関スル事務ハ東京海

軍造兵廠軍醫長ヲシテ管掌セシメ之ニ該廠附

看護手及看護ヲ附ス

第六條 製造火薬ノ検査ハ東京海軍造兵廠検査

科負ヲシテ之ヲ行ハシム

第七條 第二條ニ掲クル職員ノ外書記及技手ヲ
置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條 海軍下瀬火藥製造所ノ定員ハ別表定ム
ル所ニ依ル

附則

第八條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

(別表)

海軍下瀬火藥製造所定員表

所	長技師	一書記	六
主	幹技師	一技手	六
合計 十四人			
備考	一 本表定員ハ事業ノ進歩ニ從ヒ漸次充實ス 二 本表定員ノ外必要ニ應ジ他ヨリ兼務セシムルコトヲ得		

理由

下瀬火薬ハ我海軍ニ於ケル唯一ノ火薬
ニシテ殊ニ軍事上最モ急速製作ヲ
要スルガ故ニ本定員ヲ設クルノ必要アリ
之レ本按ヲ提告スル所以ナリ

案：提出，下所定案製造所條例中
技師之人，請給「俸給」及「諸給」各目
中より派用支那，見込二付之レ力為又
派員，膨張ヲ求メサ、ル義ニ有之也
案右様御了志お事致す也
四月十日

海軍大臣官署印



法制局長官平田東助殿

通テ該條例附則中八條ハ削除せられ
也